

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
29 ヒタナイ 平田内 (熊石町)	川 温泉	ピラタサンナイ	pira-ta-san-nay	崖・の方へ・流れる・川	この川口に白岩があって、(崖のように)屏立していたため。	永田	B	-
30 ピラトリ 平取 (平取町)	町	ピラウトウル *ピラウトウル	pira-utur { piratur }	崖・の間	沙流川中流西岸の街。対岸は崖続きで、その崖を分けてパンケピラウトウルナイとベンケピラウトウルナイが大川に注いでいる。平取は東岸時代の名で、略してピラウトウルと呼んだものを、更に続く母音の一つを省いてピラウトウルとなったものらしい。	山田	A	
31 ピランペツ 美蘭別 (本別町)	地区 川	ピラウンペツ *ピランペツ	pira-un-pet { piran-pet }	崖・ある・川	5万分図を見ると中流の辺に川崖が所々にかかれてある。まあこう読むのが自然ではないかと思った。	山田	B	-
32 ピリカベツ (今金町)	川	ピリカベツ	pirka-pet	美川 美しい・川	メノウ石があって、水も清冽であったため。 アイヌ時代の名であるから、メノウのことは考えなかったろう。川に行ってみると何ともきれいな水が流れている。それで「いい川」と呼んだものか。	永田 山田	A	
33 ピリハツ 美里別 (本別町)	地区 川 山岳	ピリカアンペ	pirka-an-pe	美水 美しく・ある・水	この略であるとアイヌは言う。 実際この川の水は美しい。利別本流が濁ってもこの川の水は濁らないという。	永田 山田	C	?
		ピリペ	pir-pe	渦流の水 {渦・水}	鮭鱒の集る好漁場なり。			-
		ピリペツ	pir-pet	渦の・川	今の語形だけ見ればピリペツとも読める。今歩いて見ると水量が少なく、渦なんか見られない川だが、土地の人に聞くと水力発電のため取水しているので少なくなったのだという。川筋には川の屈曲部に川の削った崖が多い。水量のあった時代にそんな所が淵になり、渦があったかもしれない。	山田		-
34 ピルワ 美留和 (弟子屈町)	地区 駅 山岳	ペルア	pe-rua {?}	泉 {?}	清泉が岩中から湧出していた。	永田	C	? -
		ペルワアンペツ	-	泉池・ある・川	-	駅名		? -
		ペレケイワナイ	{ perke-iwa-nay }	裂けた・山の・川	美留和山という小山をペレケヌプリとも、ペレケイワとも呼び、その麓から流れる川をペレケイワナイと呼んでいたのを、ペレイワナイとなり、ペルアとなり、美留和という漢字に定着されたものである。	更科		?

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考			
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント		
35 ヒロオ 広尾 (広尾町)	町 川 山岳	ピリオロ	pir-or	カゲ 蔭	山の蔭なる故地名になすという。 名のもとになった広尾は崖の岬の所で、古いころの十勝会所はその崖下にあった。元来の会所のあった所の名だったとするなら、この説は捨て難い。	上原 永田 山田	C	-	諸説あり特定しがたい。	
		*ピロロ		蔭・の所						
		ピオロ	pi-or	石・の所		小石の多き取る也。				松浦 山田
		ピレイベツ	piruy-pet	砥石・の川		広尾川の川口に近い北岸に青味を帯びた石崖があるのがそれだろうといわれている。				永田 山田
		ピラオロ	pira-or	崖壁ある所 崖・の所	-					
36 ピラセ 琵琶瀬 (浜中町)	地区 川 湾	ピパセイ	pipa-sey	貝殻ある所 カラス貝の・貝殻	琵琶瀬川にでもカラス貝が多かったからの名か。	永田 山田	B	-		
37 ピンネシリ 敏音知 (中頓別町)	地区 山岳	ピンネシリ	pinne-sir	男である・山	トンベツ 頓別川上流の東側に、川下から ^{マツネシリ} 松音知 (matne-sir 女である・山) とともに、敏音知の二つの独立山が並んでいる。 {「松音知」は別掲。}	山田	A	matne-sir に対比して呼ばれたものと思われる。		

【フ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 フウレツ 風烈布 (枝幸町)	地区	フレブ	hure-p	赤き所 赤い・もの	フレブはよくイチゴや「こけもも」を呼ぶ言葉であるが、ここでは「赤い・川」の意だったのかもしれない。川尻しか見えていないが、何となく水の赤い川だった。やち水が流れてもいて赤いのであったろうか。 {松浦『西蝦夷日誌』は「フウレツ 赤崩有るが故」と書いている。}	永田 山田	B	-
2 フウレン 風連 (風連町)	町 川 駅	フレベツ	hure-pet	赤い・川	-	永田	B	-
3 フウレン 風蓮 (根室市)	川 湖	フレベツ	hure-pet	赤い・川	川筋はやちが多いので、赤いやち水が流れているという意味でこの名で呼ばれたのであろう。同名が道内に多い。湖はただ to と呼んだが、風蓮川が注ぐ湖なので、後で風蓮湖と呼ばれた。	山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
4 フイマイ 笛舞 (えりも町)	地区	プイオマフ	puy-oma-p	プイ草{エゾノリュウキンカ} ・ある・所	{松浦『東蝦夷日誌』は「この沢にフユ(流泉花)有り、故に名付く」と書いている。}	永田	B	-
5 フカガ 深川 (深川市)	市 駅	-	-	-	市街の辺は前はメムと呼ばれていた。市街の西郊がメム川の水源であったからか、また別のメム(mem 湧泉池)があったからかも分からない。明治23年ごろから深川の名が出て来た。永田方正が、砂川、滝川、旭川等のアイヌ語意識地名を作った頃なので、あるいはその一環として作られた名か。何という地名を訳したのかも全く忘れられている。市街のすぐ北側を大鳳川(ooho-nay 深い・川)が流れているので、あるいはそれを訳したもののか。	山田	C	
6 フクシマ 福島 (福島町)	町	-	-	-	ごく古くは折加内と呼ばれたが、寛永元年月崎神社の神託により福島と改名したのだという。折加内は、川が曲がっていて溯ると下の方向になる感じの所があって、ホロカナイ(horka-nay 後戻りする・川)と呼ばれたものか。	山田	A	和名と思われる。
7 フシ 布辻 (三石町)	川	フシイ *フシ	pus-i	(川水が)破って噴き出す もの(川)	この川口は今でもひどく屈曲して昔の面影を残している。砂で川口が塞がりやすかった川で、川尻に貯った水がそこを破って噴出するのが目立ったので川名となったものだろう。	山田	B	-
8 フシ 武士 (佐呂間町)	地区 川	フフウシイ *フフシ	{ hup-us-i }	{トドマツ・多い・所}	トド松が多いため。	松浦	C	- 諸説あり特定しがたい。 ?
		フシイ *フシ	pus-i	潰裂 {破裂する・所}	この名があるが、(川尻が)切れたことはないという。	永田		
		プウシイ *プウシ	pu-us-i	倉・ある・所	程近い常呂川筋にこの地名がある。もしかしたらそれと同名だったのかもしれない。	山田		
9 フシキド 伏木戸 (江差町)	地区	フシプトウ	pus-putu	破口 フシと破る・川口	アツサプ川が破裂して川口となることが度々あり、このため名付けられたという。 厚沢部川の古川は、今でも海浜に沿ってずっと伏木戸の近くまで残っている。昔は風雨の際に川口が砂で塞がると、今の古川を流れ下り、伏木戸の辺で砂浜を破り、そこで海に注ぐこともあったのだろう。	永田 山田	B	-
10 フシコ 伏籠 (札幌市)	川 地区	フシコサツポロ	husko-satporo	古い・札幌川	札幌川(豊平川)は、元は現在の豊平橋の辺から北流し、今の茨戸市街の東の所で旧石狩川に注いでいたが、後に洪水の時に河道が変わり、東側のツイシカリ川の川筋に流れ込んで東北流したのだという。それから元来の札幌川下流は急に小川となり、そこがフシコ・サツポロ(古い・札幌川)、あるいは簡単にフシコ・ペツと呼ばれるようになった。{札幌については別掲。}	山田	A	

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
11 フツシ 風不死 (千歳市)	山岳	フウシヌプリ *フブシヌプリ	hup-us-nupuri	トドマツ・群生する・山	{古くからトドマツの群生地であったらしく、現在も麓から8合目までトドマツの群生地であるという。}	山田	A	
12 フツシ (阿寒町)	山岳	フウシヌプリ *フブシヌプリ	hup-us-nupuri	トドマツ・群生する・山	阿寒湖の西、尻駒別川の南の山でトドマツ地帯である。	山田	A	
13 フツシナイ 布伏内 (阿寒町)	地区	フウシナイ *フブシナイ	hup-us-nay	トドマツ・群生する・川	-	山田	B	-
14 トロ 太櫓 (北檜山町)	地区 川 山岳 峠	ピッコロ *ピトロ	{ pit-oro }	小石の有る {小石・の所}	ここにはニシン網などの重石とする小石などが沢山あったため。	上原	B	? pitに関わる名と思われるが、 現況は pit に関し特徴的な様子ではないらしい。 ?
		ピッコロベツ *ピトロベツ	pit-or-pet	石川 石・の所の・川	下流筋は全くの泥川で、網の重りに使うような pit (小石)は中流以上でないで見当たらないようであった。なお太櫓場所と呼ばれた地帯の運上屋はこの川筋でなく、川口より南の海岸にあったので、そこが太櫓と呼ばれるようになった。	永田 山田		
15 フイシマ 冬島 (様似町)	地区	プイオスマ *プヨスマ	puy-o-suma	穴・ある・岩	冬島の海辺の大岩にアーチ型の穴があって、昔はそこを通ったなどという。	山田	B	-
16 フヲノ 富良野 (富良野市)	市川 駅	フヲヌイ	hura-nuy	臭 ^{カエン} き火焰 {におい・炎}	上流に硫黄山があって、臭い火炎がたちあがっていたため。	永田	B	? 「hura-nu-i」解の方が自然な形と思われる。 -
			hura-nu-i	臭・もつ・所 臭気・を持つもの(川)	この名は富良野川がもとであった。松浦氏は「川の源が現在の十勝岳であるため、臭気が鼻をつき」と書いた。	駅名 山田		
17 フルサン 古山 (由仁町)	地区 駅	フルサム	hur-sam	丘 ^{カタワラ} の傍	由仁川の支流フルサン川筋の名で、馬追山の東麓である。	山田	B	-
18 フルピラ 古平 (古平町)	町 川	クルピラ	{ kur-pira }	模様ある岩山 {影・崖}	この海岸に雲形の模様が有る岩山があったため。	上原	C	- 諸説あり特定しがたい。 - -
		フルピラ	hur-pira	小さき山の崩 丘の・崖	丸山岬あたりの地名か。	松浦		
		フレピラ	hure-pira	赤崩平 赤い・崖	古平川の南の崩岸を指していったもの。	山田		

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観測	コメント
19 フレナイ 振内 (平取町)	地区 山岳	フレナイ	hure-nay	赤い・川	市街の後を流れている振内川が、鉱物質かやち水かで赤い川だったのであろう。同名が道内の所々にある。 {やち水が流れる川だという。}	山田	A	
20 フレベツ 布礼別 (富良野市)	川	フレベツ	hure-pet	赤い・川	{松浦『戊午日誌』は「川水赤く、鉄気ありて飲みがたし。石も何も赤くなりたり」と書いている。}	山田	B	-

【へ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観測	コメント
1 ヘーパン 米飯 (旭川市)	川	ペパン	pe-pan	飲水 {?}	pan は飲むという意味。	永田	C	? -
	山岳	ペパンベツ	pe-pan-pet	水・あまい・川	これの下略か。	知里		
2 ペーメン (清里町)	川	ベメム	pe-mem	泉池 {水・湧き水}	-	永田	C	-
		ペウエンメム	pe-wen-mem	水の・悪い・湧水の池	-	知里		
3 ハイアン 兵安 ヘイチアン 兵知安 (中頓別町)	地区 川	パンケペイチャン	penke-pet-ican	上の・川の・鮭鱒産卵場	川口の対岸にペンケ・イチャンという小川があり、松浦図にはヘンケヘトイチャンと書かれている。左記の形が訛って兵知安となったものであろうか。字名も元来、兵知安という地名であったが、後に略されて兵安と呼ばれるようになった。	山田	B	-
4 ヘオッヘ 辺乙部 (剣淵町)	川 山岳	ペオッペ	pe-ot-pe	水・多くある・もの(川)	意味はよく分からない。水だらけの川とも読まれる。水量が多いというのか、小流がいっぱいあって水だらけという意なのかははっきりしない。	山田	C	-
5 ヘカンペウシ 別寒辺牛 (厚岸町)	地区 川	ペカンペウシイ *ペカンペウシ	pekanpe-us-i	沼 ^{ヒシ} 菱の生ず ヒシ・多い・所	この川に沼ヒシが沢山あったため。	上原 山田	B	? ? 上原解の方が自然な形と思われる。
		ペカンペクシイ *ペカンペクシ	pekanpe-kus-i	水上を行く{?}	ヒシを取ろうと思いついてここに来たが、ヒシは絶えて無くなってしまったため、徒らに水上を行ったことをもって名付けられた。 たぶん上原地名考の形が原名で、後にヒシがなくなってでもいて、ウシをクシに読み変えて説話をつくったのではなかろうか。	永田 山田		

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
6 ^キチ 戸切地 (上磯町)	川	ペケレペツ	peker-pet	清澄な・川	濁川である久根別と対照された名なのであろう。	山田	B	-
7 ベキンノ鼻 (羅臼町)	岬	ペケレノツ	peker-not	明るい・岬	この山には樹木がなく明るい ため。 peker-not の r が次の音の n にひきつけられて n に転音し、ペケンノツとなり、それが訛って今のベキンノとなり、更に岬の意味の鼻がつけられたものらしい。そこは低い草原の岬で、突端には岩が露われている。	松浦 山田	B	松浦解の方が自然な形と思われる。
		*ペケンノツ	peken-not					
		ペレケノツ	perke-not	破岬 {破れる・岬}	-	永田		?
8 ^ツカイ 別海 (別海町)	町	ペツカイ	{ pet-kay }	川が・折れる	松浦氏は「ベツカイ。川が折れた」と書き、永田氏は「ペツ・カイエ。破れ・川。又折れ川とも。」と書いた。語義がはっきりしない。ペツ(川)に、カイ、カイエのどっちかがついた言葉。海岸の砂浜で、川口が曲がり、また破れるようなところから呼ばれたのであろうか。 {松浦氏は「ベツカイ 川・背負う」とも書いている。また、別海町HPは「ペツ・カイエ。西別川の海に出る所が曲がりくねっており、『川の折れ曲がっている』ということの意味する。」と書いている。}	山田	C	-
		ペツカイエ	{ pet-kaye }	川・を折る				
9 ^ツカリ 別狩 (厚田村)	地区 山岳	ペツウカリ	pet-tukari	川・の手前	松浦氏は、南にあった押琴の運上屋の方からみて呼んだ地名であると書いた。	松浦 山田	B	-
10 ^ツカリ 別苅 (増毛町)	地区	ペシウカリ	pes-tukari	^{ガンベキ} ^{コナタ} 崖壁の此方(崖壁の行き留り) {断崖・の手前}	正にその地形である。	永田 山田	A	
11 ^ツウガ 別当賀 (根室市)	地区 川 駅	ペツウツカ *ペトウツカ	pet-utka	浅瀬 川の・浅瀬の上を水がうねり流れる所	-	永田 山田	B	-
12 ^ツハツ 別々 (苫小牧市)	川	ペツペツ	pet-pet	川・川	この川は西又は東へ曲流していて、ほとんど別の川かと疑うほどである。故に川々と名付く。 古くは中下流がやちだったので、そんな姿で曲流していたものか。	永田 山田	B	-
13 ^ツポ 別保 (釧路町)	地区 駅	ペツポ	“ pet-po ”	川っ子 {小川}	この川は相当な川なので少々変であるが、大きい釧路川本流と比較してこんな名で呼んだのであろうか。	山田	C	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
14 ペテガリ (静内町)	川 山岳	ペツエカリイ *ペテカリ	pet-e-kari-i	川が・そこで・回っている ・もの(川)	現在の 5 万分図では、コイカクシシビチャリの東に上っている川に「ペテガリ沢川」と書いてあり、その下流の辺がひどく曲流しているので、それを呼んだ川名であったろうか。 {松浦『戊午日誌』は「ペテカリベツ この源ニトシ(三石)の山の後に廻りあるため」と書いている。}	山田	B	-
15 ペペケナイ (美深町)	川	ペペケレナイ ペペケンナイ	pe-peker-nay pe-peken-nay	水が・清澄な・川	{清冽そのままの川であるという。}	山田	A	
16 ハッ 辺別 (旭川市)	川	ペペツ	pe-pet	水・川	水量豊かで流れの早い川だという。	知里	B	-
17 ベペルイ (富良野市)	川	ペペルイ	pe-pe-ruy	水・水・ ^{ハナハダ} 甚だしい	そのまま読めば、こうである。	山田	C	-
		ピピルイ	pi-pi-ruy	石・石・甚だしい	松浦氏は「ヘヘルイ。大石川。サツテクベペルイ(注:支流の名)。転太石磊々」と書いた。それから見ると、こうであったかもしれない。			
18 ペンケ (西興部村)	川	ペンケオクッタロマナイ *ペンケオクッタロマナイ	penke-“ o-kuttar -oma-nay ”	上流側の・オクッタロマナイ川 (川尻に・イタドリ・ある・川)	興部川を遡ると興部町の西端部で西から班溪(パンケ)川が、更に遡って西興部村に入ると西からペンケ川が入っている。明治 31 年図ではパンケ、ペンケのオクッタロマナイと書かれている。	山田	B	-
19 ペンケ (幌延町)	沼	ペンケト	penke-to	上流側の・沼	サロベツ川本流の東側に二つの大きな沼が南北に並んでいる。だだっ広いヨシ原の中にある広い円形の水溜まりである。	山田	A	
20 ペンケウタシナイ (歌志内市)	川	ペンケオタウシナイ *ペンケオタシナイ	penke- “ ota-us-nay ” { penke- “ ota-s-nay ” }	上流側の・ウタシナイ川(砂浜が ・ついている・川)	-	山田	B	-
21 ペンケウレトイ (音更町)	川	ペンケウレトイ	penke-“ ure-toy ”	上の赤土 {上流側の・ウレトイ(赤・土)川}	川筋に赤土が多く出ているという意であろう。	永田 山田	B	-
22 ペンケオタスイ (新得町)	川	ペンケオタスイ	penke-“ ota-suy ”	上流側の・オタスイ(砂・穴)川	読みにくい地名なので日高の菅野茂氏に相談したら、オタスイなら沙流川筋の額平川にもある。ぼろぼろな砂岩にスイ(穴)があってその名がついたと語られた。	山田	B	-
23 ペンケチャロマップ (上川町)	川	ペンケ(ニセイ)チャロマップ	penke-“ (nisey-) caromap ”	上流側の・ (ニセイ・)チャロマップ 川	たぶん左記の意で、そのニセイが略されたものであろう。 {ニセイチャロマップ川については別掲。}	山田	A	

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
24 ペンケチン (音更町)	川	ペンケチン	penke-cin	上流側の・チン(獣皮を枠に張って乾すこと)川	その乾し場の所の川の意であろう。	山田	B	-
25 ペンケトブシ (足寄町)	川	ペンケトブシ *ペンケトブシ	penke- "top-us-nay"	上流側の・トブシ川(竹が群生する・川)	利別川西岸にパンケ(下の)、ペンケ(上の)のトブシ川が並流して注いでいる。	山田	B	-
26 ペンケナイ 辺毛内 ペンケナイ (歌登町)	地区 川	ペンケナイ	penke-nay	上流側の・川	幌別川に北から注いでいるのがパンケナイ川で、南から入っているのがペンケナイ川である。ふつう、パンケ、ペンケは並流する川につけるが、ここでは対岸になっている川の名になっている。この二川はこの辺での目立つ大支流であるからであろう。	山田	A	
27 ペンケナイ (新得町)	川	ペンケナイ	penke-nay	上流側の・川	パンケ(下の)ナイがあったはずであるが、地形上それに当たる川が見当たらない。川名の移動でもあったものか。	山田	C	?
28 ペンケニコロ (新得町)	川	ペンケニコロペツ	penke "-ni-kor-pet"	上流側の・ニコロ川(木を持つ・川)	カムイロキから十勝川を少し上がると、西側にパンケ、ペンケの二川が並んでいる。	山田	B	-
29 ペンケヌーシ (日高町)	川 山岳	ペンケヌウシ	penke-"nu-us"	上流側の・ヌーシ(豊漁・ある)川	沙流川源流に近い所にパンケ、ペンケのヌーシ川が並んで東から注いでいる。むやみに魚が捕れた川であったという。	山田	B	-
30 ペンケペオッペ (剣淵町)	川	ペンケペオッペ	penke-"pe-ot-pe"	上流側の・ペオッペ川(水・多くある・もの(川))	意味はよく分からない。水だらけの川とも読まれる。水量が多いというのか、小流がいっぱいあって水だらけという意なのかははっきりしない。	山田	C	-
31 ペンケペタン (雨竜町)	川	ペンケペッアウ *ペンケペタウ	penke-"pet-aw"	川上側の・ペタン(川の・枝)川	この川と本流の合流点の所の名。そこに入る川という意味でこの名で呼ばれたのであろう。	山田	B	-
32 ペンケヤーラ (南富良野町)	川	ペンケヤラ	penke-yar	上の・破れ川	ヤラ(yar)は破れる(破れている)、すり切れる(すり切れている)の意。川口の辺でも水で崩れる川だったろうか。ヤラはまた樹皮の意味にも使った。樹皮で曲げものの家具を作ったりしたので、それを採りに行く川であったのかもしれない。	永田 山田	C	-

【ホ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ホクリウ 北竜 (北竜町)	町	-	-	-	明治 32 年雨竜村から分付してできた村で雨竜村北部の意。	山田	A	「雨竜」参照。
2 ホコイ 母恋 (室蘭市)	地区	ポクオイ	pok-o-i	^{カゲ} 陰所 {?}	-	永田	B	? - 知里解の方が自然な形と思われる。
	駅	*ポコイ	pok { sey }-o-i	ホッキ貝・群生する・所	-	知里		
3 ホゴシ 帆越 (大成町)	岬	ポクウシイ *ポクシ	pok-us-i	(崖の)下・にある・所	元来は岬の突き出した下にあった土地の名であったようである。	山田	B	-
4 ホシオキ 星置 (札幌市)	地区 川 駅 滝	ペシポキ	pes-poki	崖の・その下	永田地名解は「ソー・ポキ。滝下。一名ホシポキと云ふ」と書いた。滝の辺は崖になっているので、このような名でもあったろうか。	山田	C	-
5 ホニオイ 穂香 (根室市)	地区	ポンイオイ *ポニオイ	pon-i-o-i	小ヘビ多き所 {小さい・それ・多い・所}	恐ろしいもの、貴重なものの名をいうのをはばかって、イ(i それ)と呼んだ例は多い。	永田 山田	C	- どちらとも特定しがたい。
		ポンニオイ	pon-ni-o-i	小さい・木片(寄り木) ・多い・所	オ(o)はふつう地面から離れたものが多い意に使う。左記のようにも読める。	山田		
6 ホハツ 穂別 (穂別町)	町 川 ダム	ポペツ	po-pet	小川 {小さい・川}	ここで二股となり、上流より左は本流で右がポペツ。アイヌ語のポ(po)は子供の意。地名では語尾につけて指小辞のように使う場合が多い。ナイポ、ペツポの形は多いが、前につけてポペツとした形はあまりない。また穂別は大川で決して小川ではない。	永田 山田	C	? ? ?
		ポンペツ	{ pon-pet }	子なる・川	-	駅名		
7 ホリカフ 堀株 (共和町)	地区 川	ホロカフ	horka-p	後戻りする・もの(川)	堀株は元来は川の東岸の砂浜の所の名である。行くと見ると河跡湖のようなものが、ぐにゃぐにゃに曲がって残っている。古くは川口から上って行くと、川上が海の方に向かっていたりしていた場所である。	山田	B	? ? 語尾の形が異なるが、両説とも同趣旨。ただし他説もあり、特定には至らない。
		ホロカペツ	horka-pet	後戻りする・川	-	共和町史		
8 ホロ 幌 (浜益村)	地区 川	ポロクンベツ	poro-kunpet	大きい・クンベツ川	幌川と群別川はこの辺で二つの長流であり、ごろた石の中の急流である姿も似ていて兄弟のような川なので、こう呼ばれ、それを下略して「幌」と呼んだものらしい。 {群別については別掲。}	山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
9 ポロ (猿払村)	沼	ポロト	poro-to	大きい・沼	その東側にあるモト(mo-to 小さい・沼)と対照的に呼ばれた名であったろうか。	山田	A	
10 和イ 幌岩 (佐呂間町)	山岳	ポロイワ	poro-iwa	大きい・山	サロマ湖南岸中央部に突き出してそびえている山の名。湖岸の至る所からその秀麗な山容が望まれる。	山田	A	
11 和カ 幌加 (上土幌町)	地区 川 山岳 温泉	ホロカナイ	horka-nay	後戻りする・川	さかのぼると後戻りするような形でウペペサンケ山の方に上って行く川である。	山田	A	
12 ホロカオ シリカ 幌加尾白利加 (新十津川町)	川	ホロカオシリカ	horka-osirarika	後戻りする・尾白利加川(支流)	尾白利加川の南支流(流長 16 キロ)の名。上って行くと本流の川下の方に行くような感じのする川という意味であった。{尾白利加については別掲。}	山田	A	
13 ホロカナイ 幌加内 (幌加内町)	町 川 峠	ホロカナイ	horka-nay	後戻りする・川	道内にホロカ・ナイ(horka-nay 後戻りする・川) の名は多いが、こんなにひどくホロカ(後戻り)している川はない。	山田	A	
14 和ヤンウ (大樹町)	沼	ホロカヤント	horka-yan-to	後戻りして・揚がる・沼	番所の老人に聞いたら、砂浜の所が切れると海水が入って来て 600 メートル位奥まで海の波が及ぶという。海水が逆に上るという意味であろう。あるいは切れていない時に水位が上って、沼が奥まで揚がるという意味であったのかもしれない。	山田	B	-
15 和シ 幌尻 (平取町)	山岳	ポロシリ	poro-sir	大きい・山	神様のいらっしゃる山として崇敬され、伝承が残されている名山である。	山田	A	
16 ポロト (白老町)	湖	ポロト	poro-to	大きい・沼	その沼は二つ沼が並んでいて、ポロト(poro-to 大・沼)、ポント(pon-to 小・沼)と対照して呼ばれていた。この形の沼名は北海道各地に多い。	山田	A	
17 ホロト 幌戸 (浜中町)	地区 川 沼	ポロト	poro-to	大きい・沼	現在もそこに沼があり、その沼が東隣の ^{ボンポロト} 奔幌戸にあった沼より大きかったので呼ばれた名。	山田	A	
18 ホロナイ 幌内 (三笠市)	地区	ポロナイ	poro-nay	大きい・沢	道内に同名が多い。	山田	A	